

## 研究発表大会顛末記

### 第31回 国際P2M学会春季研究発表大会 結果報告

実行委員長 : 慶應義塾大学 大学院システムデザイン・マネジメント研究科 当麻哲哉  
実行副委員長 : 慶應義塾大学 大学院システムデザイン・マネジメント研究科 白坂成功

#### 1. はじめに

毎年、春と秋に開催されている研究発表大会の 2021 年度春季大会が、去る 4 月 18 日(日)にオンラインで開催されました。コロナ禍におけるオンライン開催は、前年の秋季大会に続き二度目となりましたが、当日は全国から約 70 名のリアルタイム配信の参加者があり、成功裏に終えることがで

きました。

開催にご協力いただきました主催側の国際 P2M 学会関係者の皆様、協賛いただいた多くの業界団体様、ならびにご参加いただきました会員及び一般の皆様、開催校の実行委員を代表しまして、深く御礼申し上げます。



- 1 開催予定だった慶應義塾大学日吉キャンパス：コロナ禍のためオンラインに変更

## 2. 大会の趣旨

本大会は、『超 VUCA 時代の社会変革とプログラムマネジメント』をテーマに開催いたしました。

激動する現代社会が直面している問題の多くは、年々より複雑化し、その解決が困難になっています。少子高齢化、格差、教育、雇用、セキュリティ、防衛・外交、震災、地球温暖化、経済危機など、様々な課題が私たち人類の未来を脅かしていると言えます。とくに昨年来、私たちに襲い掛かっている新型コロナウイルス感染拡大の危機は、地域や国のレベルを超えて、全世界に影響を及ぼしてきました。これらの課題は、予測が難しい、あるいは予測不可能なことも多く、私たちはこうした不確実性の時代に生きていると言えます。

大会テーマのキーワードである「VUCA(ブーカ)」とは、Volatility(変動性)、Uncertainty(不確実性)、Complexity(複雑性)、Ambiguity(曖昧性)の頭文字を取った言葉で、もともと米軍が1990年代に使用していた言葉ですが、今まさに、軍事レベルではなく、一般の私たちの社会そのものが、VUCAの時代に突入しています。とくに新型コロナウイルスのような、全く予測不可能な出来事が突然、かつ急激に世界中に大きな影響を及ぼす有様は、VUCAを超えた「超VUCA時代」に来ているのではないのでしょうか。このような「超VUCA時代」にあっては、問題解決に向けた考え方、意思決定のあり方、実行の仕方に、これまでの常識や経験の範疇で行動しては全く歯が立ちません。それぞれの専門の領域を超えて、多様なものの見方や思考方法、相互の対話と理解が必須とされます。

こうした時代で必要とされるのは、変化

への柔軟性、不確実性への対処、多様な価値観の認知、全体の展望と一覽性説明の能力などであり、これらはまさに「プログラムマネジメント」の考え方そのものです。私たちは今、「プログラムマネジメント」が必要な時代にいると言っても過言ではなく、本大会ではこのあたりをテーマに、これからの社会にどのような貢献ができるのか、どのように貢献していくべきなのか、基調講演とパネルディスカッションを通して、有意義な議論をすることができたと自負しております。詳細はそれぞれの項目にてご報告いたします。

## 3. 大会概要

本大会は、4月18日開催当日のリアルタイム配信による基調講演とパネルディスカッションのほかに、オンデマンド配信による研究発表も行われました。それぞれにつき概要をご報告させていただきます。

### (1) 研究発表の部

研究発表の部には全21件の発表があり、事前に収録された発表者の動画を、4月18日から5月17日までの1か月間、ウェブ上で閲覧できるオンデマンド形式にて行われました。21件の内訳は、「企画・R&D」の分野に6件、「人材育成」の分野に7件、「社会」の分野に8件となっております。

公開から4月27日までの10日間は、発表者への質問やコメントを受け付け、多くのご意見それぞれに該当する発表者からの回答をさせていただきました。また、質疑応答終了後、審査が行われ、発表の中から下記の3件に「発表奨励賞」が授与され、ホームページにて5月20日にアナウンスいたしました。受賞者の皆様、おめでとう

ございます。

### <発表奨励賞>

- ・貴島 文緒 様 (企画・R&D 分野)「情報通信業で働く IT エンジニアの転職希望意識について」
- ・永井 祐二 様 (社会 分野)「地域循環共生圏構築における P2M ～木質バイオマス利活用計画を事例として～」
- ・細川 元 様 (人材育成 分野)「デザイン教育における PBL での効果的な学習に関する思考的研究 ～ルーブリックを用いた評価プロセスが学習効果に与える影響～」

### (2) 基調講演

4月18日13:00からのライブ配信では、学会員のための総会、および国際 P2M 学会会長山本秀男氏の開会挨拶、実行委員長当麻による開催校挨拶に続いて、次の2件の基調講演が行われました。

- ・基調講演1「デジタル時代のアジャイル・ガバナンスのすすめ」  
須賀千鶴氏 (世界経済フォーラム第四次産業革命日本センター長)
- ・基調講演2「DXのドライバーは何なのか」  
福田譲氏 (富士通株式会社執行役員常務 CIO 兼 CDXO 補佐)

須賀氏からは、第四次産業革命日本センターで取り組まれている「アジャイル・ガバナンス」についてお話を伺いました。昨今の世の中の急激な変化に、法やルールのアップデートが追い付かず、従来の慎重な進め方が時代の流れに合わなくなっています。信頼獲得のための長い連鎖のどこかにトラストアンカーを差し込んで連鎖を止め、異次元のスピードで規制改革していくために、マルチステークホルダーの連携

でトラストを構築していくガバナンスプロセスについてご紹介いただきました。

福田氏からは、富士通の全社 DX プロジェクト「フジトラ」についてお話を伺いました。DX 推進のためのリーダーシップのあり方、社員ひとりひとりの「パーパス」(目指す方向)を組織のパーパスと重ねることによりカルチャー変革の原動力とする全員参加プロジェクトなどのご紹介をいただき、質疑応答の時間を持ちました。

### (3) パネルディスカッション

基調講演のあと休憩を挟んで、今大会テーマ「超 VUCA 時代の社会変革とプログラムマネジメント」をもとにしたパネルディスカッションを開催しました。パネリストとしてご登壇いただいたのは下記の方々です。

・パネリスト (順不同) :

沼尻祐未氏 (経済産業省商務情報政策局情報経済課アーキテクチャ戦略企画室室長補佐)

深堀 昂氏 (アバターイン株式会社代表取締役 CEO)

佐藤達男氏 (広島修道大学経済科学部教授)  
白坂成功 (慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授)

・モデレータ :

当麻哲哉 (慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授)

初めに各パネリストから簡単な活動紹介をしていただいたあと、超 VUCA 時代におけるプログラムマネジメントとして、「成熟社会の4つのハードル:①複雑性、②多義性、③不確実性、④拡張性」、および「5つの基本精神:①ゼロベースで思考する、②環境変化へ柔軟に対応する、③多様化する価値を認知する、④知識資源を共有する、⑤環

境変化を先取りできる速度で行動する」(いずれも『実践プログラムマネジメント』参照)をトピックスとしながら、各パネリス

トから様々なご意見をいただき、活発で有意義な議論が1時間45分にわたり交わされました。



### 1. 最後に

パネルディスカッションによって、当日の企画が終わり、最後に、国際 P2M 学会副会長、亀山秀雄氏より閉会の挨拶をいただき、すべてのプログラムを終了とさせてい

ただきました。ご参加いただいた皆様に、改めて御礼を申し上げ、これをもって開催報告とさせていただきます。

(2021年9月28日 受理)